

北海道でサケ・マスふ化事業に取り組む

こいけ

にろう

小池仁郎 (1866-1936)

北海道に渡る

小池仁郎は 1866 年（慶応 2）下小船津浜村（現・大潟区下小船津浜）で酒造業を営む太市郎の二男として生まれました。1879 年（明治 12）新潟師範学校速成科高田支場を卒業後、北海道の根室にいた叔父吉平の養子になりました。成長した仁郎は根室の八木商店に就職し、漁業や建築、経理を学びました。また、同時期には宣教師カーペンター夫妻の教えを受けて、熱心なクリスチャンとなりました。

サケ・マス^ふ化場の設置

1893 年（明治 26）別海町春別に魚場の権利を得て、漁業家として独立した仁郎は、人々からの信望を集め、根室漁業組合や根室昆布組合の代議員を務めました。また、自らの経験から「育てる漁業」の必要性を痛感して、サケ・マス増殖事業に熱心に取り組みました。1903 年（明治 36）彼はサケ・マスの増殖を目的とする孵化場を西別川河口から 80 キロ上流に設置し、標津川ほか 6 河川の上流にも同様の孵化場を新設しました。このサケ・マス孵化場の設置と増殖・品質改良への取り組みは、日本の漁業界における仁郎の大きな功績となりました。

政治家としての活躍

仁郎は、1900 年（明治 33）から根室町町会議員、1904 年（明治 37）からは北海道議会議員、1913 年（大正 2）からは衆議院議員に 7 回当選しました。1931 年（昭和 6）第 2 次若槻内閣では逓信省の政務次官となり、同年 11 月 17 日の前島記念館落成式に 50 年ぶりに帰郷し、潟町村で講演会と歓迎会が行われました。

1936 年（昭和 11）1 月 24 日、仁郎は東京下落合の自宅で、狭心症で亡くなりました。

なお、1939 年（昭和 14）には、根室に仁郎の銅像が建てられましたが、この像は戦時期に供出されてしまいました。1968 年（昭和 43）に胸像が根室公園内に再建されています。